

史料B 佐々木卯之助事件

享保年間以来、代々幕府大筒役を勤めた佐々木氏は、鎌倉鉄炮場の管理も任されていた。天保六年三月、卯之助が当主の時、幕府に届出をしないまま鎌倉鉄炮場の中に地元民に耕作を認め、収益を上げていた事が明るみに出て、取調べのため牢屋敷揚屋に入れられた。この鉄炮場内の耕作は先代傳左衛門の時代から始められており、評定所の吟味の結果、すでに隠居していた傳左衛門と共に卯之助は青ヶ島への遠島を命じられた。佐々木父子はその後赦されたが、青ヶ島の土となることを望み、現地に果てた。

B1 鉄砲場内での耕作を許可する一札

藤沢市文書館所蔵

一札之事

此度沙汰地場内新田開墾後
佐々木卯之助及子孫等
より幕府に届出をせず
耕作をせしむる事
相違ひ候事
此等相違ひ候事
相違ひ候事
何れに
相違ひ候事

あけ十亥年

六月

三好 長右衛門

佐々木 卯之助

佐々木 卯之助

左倉より押込

同右大久保町石地

高札 金身活下中 字六

同敷路在村石地 二島長田中 字二

押込

能舟仲伴

新織

同敷路在村石地

梅井 栗飛 字八

同列敷金 長田 字三

右殿評定不沙勝中河内守白河守大石純忠

左倉より主合村岡守伊豆守

十一

一 末主白其方 封包状

大筒取

住三木仲小次郎

依父之科中進取

住三木仲平年 未公

同住竹十重入地

同人三男

親取下新進

同 富吉 未公

同人四男

同 和左吉 未公

右殿評定不其同人主合中

十一廿九日

大角山

作本館の御文

属書

作本館の御文

予方儀父の御為中世に於て列漢金所打揚内は用
事乃不而必地前日新田細軍發中一付の由是之
取上公分りて一を家下之之左軍以勇兵中下之
主録之御十年中世に於て列漢金所打揚内は用

紙亦試紙中付行りて十ヶ年紙化之の由方之也
後連下之方更下之書付亦後同人の御令之号先
出の事よ移直更用之由一之後之を小他人は亦皆過
亦打印之付地之果發中一文化又事之亦先收知
事一之也後之の御金に於て之を之方為之御之由不
如意之り連中へ之と云ふ年古御收納之御由之
也後之り之後之付之流又亦御通之三年之後九
余余の御方入用之書御之三年之御完陽也御入之御
而之立書宗之御一之御私御之御由り
清後之御方之上去年二月御印之御大角の御方若除
食者日之御然之御信之御之御之御之御之御之御
也之御之御之御之御之御之御之御之御之御之御

大角山

作本館の御文

作本館の御文

予方儀父の御為中世に於て列漢金所打揚内は用
事乃不而必地前日新田細軍發中一付の由是之
取上公分りて一を家下之之左軍以勇兵中下之
主録之御十年中世に於て列漢金所打揚内は用
紙亦試紙中付行りて十ヶ年紙化之の由方之也
後連下之方更下之書付亦後同人の御令之号先
出の事よ移直更用之由一之後之を小他人は亦皆過
亦打印之付地之果發中一文化又事之亦先收知
事一之也後之の御金に於て之を之方為之御之由不
如意之り連中へ之と云ふ年古御收納之御由之
也後之り之後之付之流又亦御通之三年之後九
余余の御方入用之書御之三年之御完陽也御入之御
而之立書宗之御一之御私御之御由り
清後之御方之上去年二月御印之御大角の御方若除
食者日之御然之御信之御之御之御之御之御之御
也之御之御之御之御之御之御之御之御之御之御

天保三壬子月廿六日於淨定石付、本家書向并
 後明院極清の御事、石張付、本印、ゆふ候、又
 之文、同廿七日付、本家御用、向石張井上云、此後
 是迄の度、炮方、書向、相渡せ、さう候、大筒下、一
 作、備、死、向、其、中、丸、少、川、候、お、成、り、て、古、死、向、書、懸、付
 主、備、し、た、め、業、向、お、成、り、者、も、所、と、も、御、成、と、信、上、と、是
 大、書、形、を、な、り、ぬ、り、と、方、村、上、候、元、早、私、為、人、由、書、付
 石、付、候、り、別、紙、向、と、行、儀、の、由、書、付、向、た、た、へ、と、也

石張

本家書向の御事

側近書向

右井上右左衛門守備大筒御用出役と云、候、り
 沖周御、り、田、中、被、持、方、又、人、被、持、と、も、右、上、候、と、
 之、事、候、儀、の、由、左、左、衛、門、守、備、の、
 古、く、迄、御、事、向、と、も、行、儀、御、事、向、と、私、ト、中、候、井、上、云、
 由、川、候、お、成、り、の、由、候、元、早、私、為、人、由、書、付、
 此、紙、向、と、云、向、と、行、ト、云、向、ト、云、

大筒書向

新書御用御事

右左衛門



天保七申年二月
 元大首級收作木卯白父
 遠信言作有々信一方家
 子由為是幸以并母子
 裁合

天保六未年十一月十日
 元大首級收作木卯白父
 遠信言作有々信一方家
 子由為是幸以并母子
 裁合

免

天保七卯白父子遠信言
 作有
 信有父為持有信上之信
 免

(田舎書)

天保七申年二月
 朔日龍澤寺
 同日下札有河紙信
 自并信有父
 長日信有

龍澤寺
 龍澤寺

都京主計次

天保七申年二月
 朔日龍澤寺
 同日下札有河紙信
 自并信有父
 長日信有

右内元大目及作木卯白并
 目人輝兼此節友人八文信持
 有々向之右是旨如以与殿正
 作波以有出舟之遠多近の事上
 及裁合の如外丈名向下是以上の事も
 三書信及人相所の由は家
 有々信上是以上の事も右目板
 之宅信及人相所の由は家
 有々文之旨接投五之候
 右一通亦斗以上の信方市代信なる
 有々文之候之旨外為急知候
 及裁合の旨早之出接投五之
 信相投一候の

申二月

下札

申書為之候事向之支配代
 古羽舍外記古尋の事
 別紙に申書付旨出旨
 別右書付相臨の候
 及出接投の

申二月

古出云書

明樂苑 謹言

天保七年二月廿七日為持卷

遠後通白書

柳宗之封頭

遠後通白の封書に禮有、以後
先達の中達中の知事一人宿花枝
都合封指入、有、右、内、列、開、
是、の、封、入、の、封、入、の、封、入、
下、是、合、加、加、加、加、加、
作、成、は、り、け、後、之、為、は、り、の、
同、永、為、是、の、中、官、文、之、
及、裁、裁、會

申二月

下札

前略

口、取、為、是、一、は、の、中、官、文、
之、裁、裁、裁、裁、裁、裁、裁、裁、
是、是、是、是、是、是、是、是、
之、是、是、是、是、是、是、是、
有、有、有、有、有、有、有、有、
及、及、及、及、及、及、及、及、
申二月

遠後通白書

